

座右の書 ～ 悩める時に、勇気づけ、励ます ～

2024年6月23日、【クリスチャン・アカデミー・イン・ジャパン (Christian Academy in Japan:CAJ)】での『東久留米がん哲学外来・カフェ』(2008年スタート)に赴いた。個人面談の機会も与えられた。大変有意義な貴重な時となった。小平市から牧師夫妻も参加されていた。今度、小平の教会で『がん哲学外来・カフェ』を開設される予感がする。

今は亡き『前田こずえ』様が作成されたカルタ集(画像)を、ご主人が持参された。10月27日『カルタ大会』の開催が決定された。スタッフの皆様の真摯な姿勢には大いに感動した。

その後、東久留米駅前の『East Sideカフェ』での『読書会』(2007年スタート)に向かった。『読書会』は、【新渡戸稲造(1862-1933)『武士道』(岩波文庫、矢内原忠雄訳)と内村鑑三(1861-1930)『代表的日本人』(岩波文庫、鈴木範久訳)】を交互に読み進めている。今回は、新渡戸稲造『武士道』の第3章「義」であった。担当者に音読して頂き、その後、出席者の質問を受けながら進めた。『もし鋭敏にして正しき勇気感、敢為堅忍の精神が武士道になかったならば、義理はたやすく卑怯者の巢と化したであろう。』の文章が、今回、強く印象に残った。

筆者の読書遍歴{内村鑑三・新渡戸稲造・南原繁(1889-1974)・矢内原忠雄(1893-1961)}について語った。【小学校の卒業式の来賓の挨拶『少年よ、大志を抱け』(1887年札幌農学校のウィリアム・スミス・クラークWilliam Smith Clark:1826-1886)博士の言葉)が、筆者の人生の起点である。その後、札幌農学校2期生の同窓生『内村鑑三 & 新渡戸稲造』へと導かれ、『南原繁 & 矢内原忠雄』との間接的な出会いが与えられた。英文で書かれた『武士道』(新渡戸稲造)と『代表的日本人』(内村鑑三)は、悩める時に、勇気づけ、励まされた座右の書である。】まさに、筆者にとっては、この2冊は、人生の機軸である。

想えば、筆者の人生は、小さな村での少年時代の原風景、学生時代の読書遍歴{内村鑑三(1861-1930)・新渡戸稲造(1862-1933)・南原繁(1889-1974)・矢内原忠雄(1893-1961)}であった。小学校の卒業式の来賓の挨拶『少年よ、大志を抱け』(1887年札幌農学校のクラーク博士の言葉)を強烈に覚えている。筆者の人生の起点であると言っても過言でなかろう。その後、人生の機軸でなる『内村鑑三 & 新渡戸稲造』へと導かれ、『南原繁 & 矢内原忠雄』との間接的な出会いが与えられた。英文で書かれた『武士道』(新渡戸稲造)と『代表的日本人』(内村鑑三)は、若き日からの座右の書である。悩める時に、いかに勇気づけ、励まされたことか。

2024年6月23日『東久留米がん哲学外来・カフェ』（2008年スタート）である。【“がんの悩みを心おきなく話したい” お茶を飲みながら、患者さん、ご家族、お友達、医療者が対話する場です。 並行して、樋野興夫先生との個別面談を行っています。（無料・要予約）】と案内されている。

その後は、『読書会』（2007年スタート）である。【新渡戸稲造(1862-1933)『武士道』（岩波文庫、矢内原忠雄訳）と内村鑑三(1861-1930)『代表的日本人』（岩波文庫、鈴木範久訳）を交互に読み進めております。 リーダーは順天堂大学名誉教授・一般社団法人がん哲学外来理事長で新渡戸稲造記念センター長の樋野興夫先生です。 樋野先生のユニークでわかりやすい解説と さり気なく語られるメッセージに励まされ、人生の生きる意味を あらためて考えるひとときになります。 どなたでもご参加いただけます。 みなさまの参加をお待ちしております。】と紹介されている。 継続の大切を実感する。



がん哲学外来へようこそ

The Cancer Philosophy Cafe will meet 1-3 pm This Sunday (6/23) in the CAJ Multi purpose room, followed by the Book discussion group at 3-5pm at the East Side Cafe.

今週の日曜日6月23日、がん哲学カフェが 1-3 pm CAJ Multi Purpose Roomであります。

その後、読書会がEast Side カフェにて3-5pmにあります。



YORISOU

Please contact Okio or Jean Hino for further information!
詳細は樋野先生かJeanさんにお尋ね下さい！